

令和4年1月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和4年1月21日（金）13時～14時

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、読売新聞、河北新報、毎日新聞、置賜日報
NHK、SAY

<市>市長、秘書広報課長、観光課長、土木課長

4 記者倶楽部からの質問事項

(1) 新年の抱負をお聞かせください。

(2) 上杉雪灯籠まつりの開催に変更はありませんか。

(3) 今冬の除雪について

この時期としては非常に多い積雪になっていますが、市としての方針について、また市民からの要望やそれに対する対応について、お聞かせください。

(4) オミクロン株の感染拡大に関する米沢市としての現状認識と今後の対応について

今後検討していることは何か。特に、3回目のワクチン接種の前倒しについて。前倒しした場合、ワクチン数は間に合うのかなどについて聞きたい。

5. 内 容

○秘書広報課長

これより令和4年1月の定例記者会見を始めさせていただきます。初めに市長から本市のブランドムービーについて発言がございます。その後、記者クラブからいただいた事前質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。

○市長

米沢市ブランドムービー2021 ができましたため、そのご報告をいたします。

昨年10月に実施した米沢品質 AWARD2021 で二次審査・公開プレゼンテーションまで進んだ8社の取組をまとめたムービーを作成しました。このムービーは米沢品質向

上運動に取り組む企業や団体の方々の思いを率直に表現しているものであり、まさに「生の声」をお届けできると思います。YouTube 米沢市公式チャンネルの他、デジタルサイネージなどが設置されている各所で放映し、市民の方々への発信に努めてまいります。

ムービーの概要ですが、約9分間の全体ムービーが1本、約3分間の各社ムービーが計8本ございます。放映媒体はYouTube 米沢市公式チャンネル、米沢駅 ASK, 米沢観光コンベンション協会観光案内所、米沢ブランド戦略課・文化センター1階・すこやかセンターのデジタルサイネージのほか、各種研修会などで使用します。なお、デジタルサイネージは「(株)アールビーズとの健康増進に関する連携協定」に際し設置したものを活用しております。

担当は産業部米沢ブランド戦略課です。何かあればそちらにお問い合わせください。事前にいただいた質問は3点です。追加でいただいた1点は、随時お答えします。

1点目は「新年の抱負をお聞かせください」との質問です。

去年は本市の基礎作りをした年でした。市役所新庁舎が開庁し、市立病院と三友堂病院との医療連携病院の着工もありました。また、環境省の「地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築に向けた地域循環共生圏の創造に取り組む活動団体」に認定されました。さらに、内閣府の「SDGs 未来都市」にも選定され、持続可能な地域づくりに向けて市民の皆様のお借りしながら取りまとめをしております。今年は、こういった取組をより加速させ、持続可能な地域づくりを進めてまいります。

新年度は、大きな目標として3つのことに取り組みながら、総合的に市政運営を進めてまいりたいと思います。1つ目は「経済の持続性」です。既に皆様ご承知のように、実証実験ではありますがコワーキングスペースを米沢駅に開設しました。利用者の意見を参考にして、より充実したコワーキングスペースを作らなければならないと思っています。内閣府の交付金を活用しながら取り組んでまいります。

また、冒頭でも情報提供をしましたが、ブランド戦略を進めていかなければならないと思っています。紅花の世界農業遺産認定に向けて県との情報連携も密にしながら、世界農業遺産を米沢の魅力発信にどうつなげるかということにも取り組んでまいりたいと思います。米沢版 DMO は米沢市の総合計画にも入っておりますが、民間の若手経営者が中心となって進めていくという状況を作らせていただきました。民間の知恵、若い知恵をお借りしながら進めてまいりたいと思います。

2つ目は「社会の持続性」です。この地域に住んでいて良かったと思っていただけるように、子育て支援や雇用の地元定着がより進んでいくような取組をしなければならないと思います。また、健康長寿日本一に向けて、よねざわ健康マイレージの推進や健康診断の受診促進などを進めてまいります。

3つ目は「環境の持続性」です。本市における太陽光・風力・小水力・バイオマス

などを含む、再生可能エネルギー賦存量は、一般家庭の電力消費量1年分に匹敵する電力供給を達成できると試算されています。再生可能エネルギーを、公共施設をはじめとしてどのように導入するか。新電力会社も設立されましたから、連携を取りながら、これからのゼロカーボンシティに向けた取組を加速させていかなければならないと思います。

これら申し上げたことは、外部からの支援も必要ですが、米沢市の地域資源を活用し、内発型の地域社会・地域経済の発展を目指していきたいと思います。基礎的な部分は既に着手しておりますから、新年は内容を充実させていきたいと考えております。

2点目は「上杉雪灯籠まつりの開催に変更はありませんか」との質問です。

全国的に新型コロナウイルス感染症が多く確認され、第6波と言われる状況になっておりますが、雪灯籠まつりは開催します。しかし、県でも19日に感染対策本部が開かれ、注意警戒レベルが2に上がりました。そのため、今まで計画していた雪灯籠まつりのイベントの中には、中止せざるを得ないイベントも出てきました。「雪見の夕べ」「テント村物産展」「ステージイベント」「露天商の出店」は中止します。「キャンドルゾーン」は、キャンドルは灯しますが、ゾーンとして設けることはしません。雪灯籠そのものや、ハリウッドザコシショウや錦鯉のお笑いライブは実施いたします。最終的なスケジュールは、今後の状況次第でさまざま検討しなければなりません。1月31日の14時から、雪灯籠まつりの内容について正式に記者発表いたします。

なお、ハリウッドザコシショウや錦鯉のお笑いライブの申込数は1月20日時点で、定員500名に対して6,314名です。皆様大変楽しみにしていると、このことから伺えますから、感染予防対策をしっかりと実施し、開催したいと思います。

3点目は今冬の除雪について「この時期としては非常に多い積雪になっていますが、市としての方針について、また市民からの要望やそれに対する対応について、お聞かせください」との質問です。

昨年末から年明けにかけて集中して降雪しました。正月過ぎの道路状況が市民生活に大きな支障をきたしたことを、私も目の当たりにしました。1月5日時点で積雪深が102cmになり、1月7日に豪雪対策本部を設置しました。本来、豪雪対策本部は150cmの積雪深がないと設置しませんが、既に市民生活に支障をきたしていることから設置しました。担当課をはじめとして、業者のご協力をいただきながら排雪・道路幅拡張に取り組んでまいりました。米沢市の除雪路線が総延長で614kmありますから、全ての道路をすぐに対応することはできませんでしたが、市民生活に支障をきたさないように、今も対応しております。なお、1月20日時点での累積降雪量は360cm、積雪深は102cmです。

市の除排雪方針は第一種路線、第二種路線、第三種路線と路線ごとに除雪方針を定めておりますが、こういった状況ですから、車の交通に支障が出ないように総合的に

判断してまいります。

市民からの除排雪作業への問い合わせ件数ですが、1月17日時点で870件寄せられています。多い順から除雪依頼が約250件。これは、ざけ取り、圧雪取り、交差点処理などです。次に、除雪が悪かったという問い合わせが約155件。次に、押雪について約150件でした。除雪業者と日程調整し、早期対応できるように努めています。

この他、町内会などで組織される除排雪協力会がございます。排雪する場合は、運搬費用を除排雪協力会に負担いただき、それ以外を市が助成しています。通常は3回目の除排雪から、協力会負担金の1/2を追加で助成しますが、今回は2回目から協力会負担金の1/2を助成しております。これは、豪雪対策本部が設置されたことによります。

追加でいただいた質問が「オミクロン株の感染拡大に関する米沢市としての現状認識と今後の対応について。今後検討していることは何か。特に、3回目のワクチン接種の前倒しについて。前倒しした場合、ワクチン数は間に合うのかなどについて聞きたい」との質問です。

現在、全国16都県でまん延防止等重点措置が適用されました。山形県も連日感染が確認され、注意警戒レベルが2に引き上げられました。本市においても、連日感染が確認されております。市職員2名の感染も確認され、さらなる感染拡大に危機感を持っております。また市職員の感染については誠に申し訳ないと思っております。感染拡大防止に、まずは市職員が一丸となって取り組みながら、市民の皆様へ啓発をしていかなければならないと思っております。

ワクチンの前倒しについてです。従来、2回目の接種から8か月過ぎた方から、という方針でしたが、これを6か月に前倒ししても良いと連絡がきております。ただし、前倒しした場合問題になるのが、接種者数が増えることです。これまでは8か月対応でワクチン供給量が決まっていたわけですから、6か月対応になったときにワクチンを確保できるのかが課題でした。8か月対応については、3月末までに32,658回分のワクチン供給が確定しております。そして、6か月に前倒したことで13,842回分の追加配分が確定しました。これは1月19日に国から通知がありました。前倒し接種も含めた3月末までの接種対象者は約45,000人ですから、必要なワクチンは確保されます。

医師会など関係団体と連携をしながら、3回目のワクチン接種を推進していきませんが、心配していることはこの大雪です。降雪前の1回目、2回目のワクチン接種のように高齢者の皆様に足を運んでいただくことが可能なのか。予約に空きが出た場合は、関係団体のご協力をいただきながら、ワクチンが余らないように対応していきます。市民の皆様のご理解もいただきながら、感染防止・重症化防止のために

3回目のワクチン接種を進めてまいりたいと思います。

○秘書広報課長

市長からの発言は以上です。これ以降の進行は幹事社にお渡しします。

○記者

新年の抱負について、3つ目の目標に「環境の持続性」を上げられました。おきたま新電力株式会社が発足しましたが、市としてどう連携する予定かお聞かせください。

○市長

新電力会社設立の連絡はいただきましたが、今後どうやって電力を購入して供給するか、具体的にはまだ決まっていません。しかし、再生可能エネルギーをどう活用していくかということも行政の大きな目的です。できる限り公共施設には新電力会社からの再生可能エネルギーを供給してもらい、少しでも二酸化炭素の排出抑制に努めていかなければならないと思います。新電力会社との関わりについては、公共施設などできるところから対応していかなければならないと思っています。詳細は今後、電力会社と詰めていきます。

○記者

新電力会社の目標として、置賜の公共施設の約半分をカバーしたいとしているようですが、そのあたりはどうお考えですか。

○市長

詳細は分からない部分もありますが、心配しているのは新電力会社の電力供給能力です。太陽光・風力・小水力・バイオマスのいずれにしても、電気の売却先は東北電力になります。新電力会社が関係業者とどう連携して、どのくらいの供給能力を有しているかについて、今後見定めなければなりませんと思います。

○記者

雪灯籠まつりについてです。去年の1回目の実行委員会で配られた開催要項によると、雪灯籠と雪ぼんぼりの個数は変わらないということで間違いはないですか。

○観光課長

雪灯籠の基数は当初 200 基程度としておりましたが、募集の結果 77 団体 161 基に決定しました。雪ぼんぼりは予定どおりです。

○記者

創作雪像というのは何でしょうか。

○観光課長

一般の方から、どのような雪像でも問題ないですが、自由に創作していただくものです。現状、4団体から申し込みいただいています。

○記者

竹あかりはどうでしょうか。

○観光課長

例年は伝国の杜の広場で行っていましたが、停留する空間を作ってしまうから、雪灯籠と雪灯籠の間など人が流れるところに設置する予定です。

○記者

見込み客数はどのくらいを想定していますか？

○観光課長

令和元年の小雪のときで約 162,000 人でした。雪が多い年で約 220,000 人です。今年には雪が豊富にあります。コロナ禍で県外からの誘客が望めないため、5年間の平均値の5割から6割程度になるだろうという予測で約 117,000 人を見込んでいます。

○記者

1月31日の記者発表で正式決定し、周知していくというスケジュールですか。

○観光課長

現段階では、19日に開いた実行委員会をもとに開催の判断をしております。今後、緊急事態宣言など劇的に悪化することも考えられますから、その場合は随時招集して協議を図ることもあります。

○記者

去年は、直前の感染発覚で中止となりましたが、最終判断を1月31日の記者発表以降にする可能性もありますか。

○観光課長

今のところはありません。ただし、想定外の事態が起きた場合は実行委員会を緊急招集する可能性はあります。

○記者

錦鯉やハリウッドザコシショウはまん延防止地域から来ます。22日の落語については延期が決まりましたが、お笑いは開催すると。この判断の違いは为什么呢。

○観光課長

芸人さんについては契約上、PCR検査証明書を提出していただき、感染防止を徹底して行うことになっています。また、24日が申込期限になっていますから、その後の抽選の段階で再度検討をします。

○記者

除雪について。市民からの問い合わせ件数はいつから1月17日時点までの集計ですか。

○土木課長

降雪が本格的に始まったのが12月17日からですから、12月17日以降の件数です。

○記者

市道の総延長が614 kmですか？

○土木課長

はい。参考までに内訳を申し上げますと、主要路線である第一種路線が104km、第二種路線が31km、住宅団地内道路などの第三種路線が479kmです。

○記者

除雪費はどうなっていますか。補正は必要でしょうか。

○市長

年間の除雪費は7億円です。しかし、対策本部を立ち上げた1月5日時点で約6割消化していますから、補正を組まざるを得ない状況です。1月の臨時会で約5億円の補正予算を組む予定ですが、おそらくそれでも足りないのではないかと思います。今後の降雪状況を見ながら調整が必要ですが、当面は5億円の補正を予定しております。

○記者

過去最大で、何年度にいくら除雪費用がかかったか分かりますか。

○土木課長

平成17年度以降の統計資料ですが、平成24年度で、決算額13億3500万円です。その年の累積降雪量は959cm、最大積雪深は172cmでした。

○記者

問い合わせの中で、除雪が悪いという問い合わせがあったようですが、具体的にはどういった内容ですか。

○土木課長

雪の塊を家の前に置いていかれた、という問い合わせが多く寄せられました。

○記者

そこは改善を図っていきますか。

○土木課長

オペレーターの方には、雪の塊を作ってしまった場合は一度戻って潰してくださいとお願いしています。

○記者

雪の塊が残ってしまうのは仕方がない部分もあると思いますが、除雪に関して市民の方に呼びかけをしたらどんな声をかけますか。

○市長

市の担当部署や除排雪業者の方など全力で作業にあたっております。しかし、人口減少・少子高齢化が進む中で、雪の塊が残されてしまうことや、空き家の周りで除排雪が行われないことなどによって道路幅が狭くなっている場所が見受けられます。市民の皆様には道路の幅員確保にご協力いただきたくお願いいたします。ご高齢の方で除排雪ができない場合は、支援制度を活用いただきたいと思います。市としても、雪は災害だと国に申し上げております。住民の皆様の負担にならないように努力してま

いりますが、皆様のご理解ご協力をお願いしたいです。

○記者

除雪中に骨折する事故など相次いでいるようですが、市民への注意はありますか。

○市長

県内各地で雪によるケガ、死亡事故も起きております。事故は毎年起きていますが、今冬は米沢での事故が県内最多だという報道もあります。雪下ろしや雪片付けにおいて、状況判断をしながら対応いただきたいと思います。屋根に上がって除雪する際は、命綱・ヘルメットを着用して作業にあたっていただきたいと思います。また、はしごを登っている途中で落下してケガをする事故が多くあるようです。万が一のことを考えて二人一組で雪片付けにあたっていただきたいと思います。

○記者

ワクチン接種は2回目接種から8か月ではなく、6か月に前倒しでよろしいですか。

○市長

6か月に前倒しです。接種券の発送については随時お知らせします。

○記者

感染者数が県内過去最高になりましたが、市民への呼びかけはありますか。

○市長

感染予防にしっかりと取り組んでいただきたいと各媒体で発信してまいりました。オミクロン株は感染力が強いと言われております。感染者が非常に多く出てきています。第6波と言われる中で、山形県でも米沢市でも感染が起きているのだと思います。もう一度徹底して感染予防に努めてくださいと、今後も様々な場面で呼びかけていきたいと思っております。

○記者

米沢市は、県内ではまだ少ない方だと思っておりますが、今後増えた場合はどのような対応をしようと考えていますか。

○市長

状況を見ながら判断しなければならないと思っておりますが、まん延防止等重点措置などの対応は県が行うこととなります。市町村としての権限はありませんから、市民の皆様にご注意を呼び掛けるしか今のところできません。まずは感染防止に取り組まなければならないと思っております。

○秘書広報課長

これもちまして令和4年1月の定例記者会見を終了させていただきます。